

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業  
グローバル展開プログラム（研究テーマ：課題設定型研究テーマ）  
評価用研究成果報告書

課題		日本の国際広報と国際発信に関する実証研究			
研究テーマ名		政治と外交の対外情報発信に関する国際共同研究：日本と他国の比較実験と内容分析によるアプローチ			
研究代表者	所属機関	神戸大学			
	部局	大学院法学研究科			
	役職	教授	氏名	多湖 淳	
委託研究費		単位：千円			
平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
10,000	20,000	17,800	8,400		

### 1. 研究の概要

研究目的、研究内容、成果や波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

本プロジェクト（Collaborative Research On Political Information Transmission：CROP-IT と略記）の目的は、日本や他の主要国の対外的な政治・外交情報発信に焦点を当て、国際広報のあり方とその効果に関する実証研究を推進することにあった。日本政府の発信する政治・外交メッセージが他国に対して思うように伝達されていないという問題意識を踏まえ、CROP-IT は社会科学の分野横断的な研究力を駆使し、先端手法によるシステムティックな実証分析を実施した。

具体的には、内容分析（量的テキスト分析手法：QTA）を用いて、日本の政治・外交分野における他国との比較による情報発信の「特徴」の発見を試みた。発信された情報が他国民に受容される「メカニズム」に関する調査を、複数国におけるサーベイ実験によって実施した。内容分析とサーベイ実験の有機的結合は本プロジェクトの面白さであり、また挑戦でもあったが、成功裏に融合ができ、複数の国際学術雑誌（例、"To Denounce, or Not To Denounce: Survey Experiment on Diplomatic Quarrels," *Political Communication*）や英語の編著本において成果が公刊されるに至った。このほか、ワシントン・ポストの Monkey Cage（2016年9月）、日経ビジネスオンライン（2015年8月）、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）の外交問題専門ブログ（2016年5月）で成果を積極的に公表し、国内外でのアウトリーチに努めた。

CROP-IT の意義は次のように要約できる。第一に、データの裏づけを伴い、日本の政治・外交情報発信に関する具体的な知見を生み出した。たとえば、①広報外交に効果があること、②デナウンスメントが政治情報発信として他より秀でること、③相手の情報発信の内容に応じて、自己正当化の情報発信が第三者から隠ぺいにとらえられてしまう可能性があることなどである。第二に、国際政治学を中心に世界の知的市場において先端的な価値を持つ英語論文を生産し、定評ある国際学術誌に掲載して日本の社会科学の国際的なプレゼンスを高めた。第三に、複数の大学院生・学部生、ならびにポスドク研究員を積極的に国際共同研究に関与させ、研鑽を積ませることで、世界水準の若手研究者育成に貢献した。第四に、日本を主たる題材とした実証研究を行い、その魅力を外国の共同研究者に知らしめ、日本に対する知的関心を誘うことに成功した。

CROP-IT は、2011年9月から続いてきた神戸大学と英国エセックス大学との学術交流実績を軸にし、社会科学研究者の国際共同研究を拡充させる効果があったが、それは新しいテーマの共同研究を生み続けるという波及効果をもたらしている。たとえば、アメリカ国際関係学会の関係者を軸に、G7 諸国の外交政策をめぐるジャーナリズム（foreign policy journalism）の国際比較調査が立ち上がりつつあるが、CROP-IT が日本のチームとして参画するように打診を受け、研究が始動している。CROP-IT は広く国際的に認知され、世界水準の「知的生産プラットフォーム」としての機能を果たしつつある。